

編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌
編集委員長
西 信 雄

会員の皆様には、平素より本誌の発行に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。編集委員会では、本誌が名実ともに日本の公衆衛生の代表的雑誌となるよう審査に努めています。本号では、編集委員会が行っている審査について簡単にご紹介します。

1. 編集委員会の構成

編集委員会は、編集委員長1名、編集委員20名(副委員長2名を含む)、編集担当理事3名、計24名の本学会員により組織されています。また本学会に特徴的なこととして、約120名の会員が査読委員に委嘱されています。これらのメンバーが分担して論文の審査にあたっています。

2. 論文の審査の流れ

論文の審査は、オンライン投稿・査読システム (ScholarOne Manuscripts) により行っています。本システムに論文を投稿いただきますと、まず事務局が形式的なチェックを行います。不備がある場合は修正いただき、修正を確認した後に正式に投稿受付となります。

その後、専門分野等を考慮して編集委員長が一名の編集委員に論文の担当を依頼し、担当編集委員が二名の査読委員を査読者に指名して、いよいよ論文の審査が開始されます。ちなみに、本誌の審査は現時点でシングル・ブラインドの方法を取っており、査読者からは誰が担当編集委員なのか、また著者からは誰が査読者なのかがわからないようになっています。

査読者は2週間で論文を審査し、a) 採用、b) 要修正 (次回は査読の必要性が低い)、c) 要修正 (次回は査読の必要性が高い)、d) 不採用の選択肢から一つを選んで評価し、編集委員と著者へのコメントを作成します。担当編集委員は2名の査読者の評価をもとに1週間で論文を審査し、A) 採用、B) 小修正 (次回は編集委員のみで確認)、C) 大修正 (次回も査読委員の査読あり)、D) 不採用の選択肢から一つを選んで判定し、編集委員会と著者へのコメントを作成します。担当編集委員の判定結果は編集委員会のメーリングリストで1週間回覧され、必要に応じて追加や修正を行った後、著者に通知されます。

3. 論文の改訂回数と審査日数

論文が採用されるまで何回の改訂が必要か、またどれぐらいの期間がかかるか、気になると思います。2018年の第65巻に掲載された計50本の論文についてご紹介します。

まず改訂の回数別の論文数をみますと、初回の投稿のまま採用となった論文はなく、改訂1回での採用が7本 (14%)、2回が30本 (60%)、3回が12本 (24%)、4回が1本 (2%) でした。つまり、2回の改訂で採用となる論文が過半数であったことがわかります。

次に投稿受付日から採用日までの日数の平均値 (中央値) をみますと、改訂1回が100.9日 (85日)、2回が186.8日 (178日)、3回が239.0日 (231日)、4回が253日であり、全体では188.6日 (171.5日) でした。つまり、過半数の改訂2回での審査日数がほぼ全体にも当てはまるこ

とがわかります。なお、全体の審査日数のうち、オンライン投稿・査読システム上で審査されていた日数の平均値（中央値）は76.0日（75日）でしたので、残りの112.6日（96.5日）は改訂に要した日数ということになります。

編集委員会では、審査日数を全体的に短縮するため、オンライン投稿・査読システム上での審査日数を短縮するだけでなく、改訂いただきたい点を明確にするよう支援的な査読に努めているところです。その取り組みの一環として、編集委員会では最近査読指針を改定し、新たに編集委員の審査指針を作成いたしました。また、学会総会で編集委員が発表演題推薦カードをお配りして、投稿を促進する活動も引き続き実施いたします。さらに、英語論文の投稿を促進するため、オンライン投稿・査読システムにおいて日本語と英語の切り替えが可能となっています。日本語論文と英語論文のいずれにつきましても、今後も会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。